

芸術監督 複数制で人選へ

市民芸術館 串田氏後任検討委が方針

まつもと市民芸術館 任する串田和美総監督 (松本市深志3) の次の後任は複数制で人選していく方向性を固め、**「芸術監督の候補者などを検討する「芸術監督制」の検討委員会は27日、市民芸術館で3回目の会合を開いた。**委員5人が専門知識を持つオブザーバーの意見を参考に、3月で退任することから、分担して担っていくのが現実的でないか」と複数制を提案した。数人のチームをつくって芸術館を運営していく体制が望ましいとした上で「劇場のミッションを明確にし、それにふさわしい人材を集めるべき」と意見を述べた。

その後の委員の意見交換は非公開で、閉会后に取材に応じた検討委の青山織人委員長(松本市芸術文化振興財団理事長)は「複数制で人選する方向で意見がまとまった」と述べた。芸術分野のジャンルや人数、年齢は今とめた意見を臥雲義尚市長に答申する。昨年の11月の会合では芸術監督の任期は1期3年、



オンラインでオブザーバーの山口さんの意見を聞く委員たち

「べき」という意見が出たという。検討委は年度内に計5回の会合を開き、ま

最長2期までとする案が固まっている。

(田子元気)